

抗メタボのメカニズムを解明

ヤマブシタケの共同研究に新たな成果

「坂本バイオ」(秋田市雄和・坂本賢二社長)は、秋田県総合食品研究センター、東北大学大学院農学研究科栄養学分野(駒井三千夫教授、白川仁准教授)と共同でヤマブシタケの抗メタボ作用の研究を行い、ヤマブシタケによる体重増加抑制や血

中性脂肪低下などの脂質代謝改善作用を動物実験で明らかにしてきたが、今回、今まで不明となっていたそのメカニズムを解明した。

今回、様々な方法でヤマブシタケの脂質代謝改善メカニズムを検討したところ、ヤマブシタケによ



▲ヤマブシタケから抽出したエキスを回収しているところ

つて「PPAR α 」(解説①)が活性化されることとが確認され、さらにヤマブシタケ抽出物を摂取させた実験動物の肝臓では、脂質の燃焼や輸送に関わる遺伝子の発現量が増加していたことが明らかにした。この結果から、ヤマブシタケの脂質

代謝改善作用のメカニズムの一部がフィブラート系薬剤(人の脂質異常症の治療に使われている薬)と同様にPPAR α の活性化によるものである可能性が示された。

坂本バイオでは「この研究成果により、ヤマブシタケの摂取は、含有する食物繊維による栄養成分吸収を穏やかにするだけでなく、PPAR α の活性化により脂質代謝を促進させるため、結果として体重増加抑制や中性脂肪値抑制の効果が期待できると考えられる」としている。この成果は、社団法人日本農芸化学会発光の国際学術誌に論文として掲載された。

リガンドと呼ばれる生体内物質と結合することで、その働きが活性化され、脂質代謝関連遺伝子発現量が増えて脂質代謝が改善する。医薬品として利用されているフィブラート系薬剤は、PPAR α を活性化させるリガンドのような作用を持つ物質。

■解説① PPAR α は核内受容体の一種で、細胞内に存在し脂質代謝に関連する様々な遺伝子をコントロールしているが、

リガンドと呼ばれる生体内物質と結合することで、その働きが活性化され、脂質代謝関連遺伝子発現量が増えて脂質代謝が改善する。医薬品として利用されているフィブラート系薬剤は、PPAR α を活性化させるリガンドのような作用を持つ物質。